

富山経済同友会
教育問題委員会

～平成29年度・30年度～

活動報告(別冊)
課外授業講師派遣等
活動レポート

平成31年3月

富山経済同友会
教育問題委員会

富山経済同友会「課外授業講師」派遣制度のご案内

【概要】

富山経済同友会は、平成12年3月に発表した提言「家庭教育を見なおす～子どもと共に親も学ぶ～」において、会員による具体的行動の一つとして、「特別非常勤講師制度」や「先輩に学ぶ時間」等を活用して、課外授業の講師として積極的に参加することを提唱しています。

このことが、人生の先輩として生き方や考え方を伝えるとともに、親の仕事の一端を知る機会ともなるものと考えます。

当会の課外授業は、当会の会員（主に企業経営者）の有志によるボランティアの活動です。お申し込みは、随時受け付けていますので、当会事務局までご連絡ください。

【どんな話が聞けるの？】

- ・ 課外授業講師として参加することを申し出た当会の会員が、それぞれの得意とする分野についてお話しします。
- ・ たとえば…人生の先輩としての体験談、働くことや学ぶことの意味、夢を持つことの大切さ、企業経営者の立場からの助言、その他（国際交流、経済、金融、税など）

【どんな所に来てもらえるの？】

- ・ 主に小学校（高学年）、中学校、高等学校の課外授業や特別授業の講師としてお役に立ちたいと思います。
- ※ これまでの派遣実績や授業の様子などは、当会のホームページに掲載しています。派遣依頼書の様式をダウンロードすることもできます。

富山経済同友会ホームページ <http://www.doyukai.org/>

【留意点は？】

- ・ 当会の会員有志によるボランティアの活動です。謝礼などのお気遣いは一切ご無用に願います。
- ・ 実施日まで日数がない場合は、講師の日程調整が困難となり、ご要望にお応えできない場合もありますので、できるだけ余裕をもってご連絡ください。もちろん、計画段階でも結構ですので、お早目にご連絡願います。

【お問合せ・お申込み方法は？】

- ・ ご質問、お申込みは、随時受け付けています。

[連絡先] 富山経済同友会 事務局

〒930-0856 富山市牛島新町5-5 インテックビル4階

TEL (076) 444-0660 FAX (076) 444-0661

E-mail doyukai2@po.hitwave.or.jp

目 次

1	課外授業講師派遣実績一覧	2
2	教育講演実績一覧	5
3	各回のレポート	6
	(1) 課外授業	
	平成 29 年度	6
	平成 30 年度	13
	(2) 教育講演	
	平成 29 年度	24
	平成 30 年度	26

1 課外授業講師派遣実績一覧

<平成 29 年度> 延べ 16 校に 21 名を派遣

(講師の所属・役職は当時のもの。以下同じ。)

回	開催日	学校	講師(敬称略)	演題
1	29. 4.26(水)	富山市立和合中学校 全学年 330 名	山野 昌道 (株)チューリップテレビ 専務取締役	人生を楽しくする3つのコツ
2	29. 5.31(水)	小矢部市立津沢中学校 2 学年 43 名	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	働くとは
3	29. 6.12(月)	富山市立奥田中学校 2 学年 233 名	翠田 章男 (株)トンボ飲料 取締役社長	人生について、職業について
4	29. 6.19(月)	富山市立堀川中学校 2 学年 315 名	遊道 義則 (株)ユニオンランチ 取締役社長	働くということ
5	29. 6.20(火)	氷見市立十三中学校 2 学年 35 名	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	働くことは楽しいか
6	29. 6.26(月)	高岡市立牧野中学校 2 学年 55 名	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	働くとは
7	29. 7.3(月)	射水市立新湊南部中学校 2 学年 76 名	森藤 正浩 正栄産業(株) 代表取締役	よりよく生きる 働くとは
8	29. 7.18(火)	高岡市立戸出中学校 2 学年 124 名	堀田 信一 日本海ツアーリスト(株) 取締役社長	人生 プラス発想で
9	29. 9.13(水)	南砺市立福光東部小学校 6 学年 66 名	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	よりよく生きる
10	29. 9.13(水)	立山町立雄山中学校 2 学年 245 名	林 和夫 朝日建設(株) 取締役社長	生きること、学ぶこと、働くこと
11	29. 9.22(金)	黒部市立鷹施中学校 全学年 248 名	中尾 哲雄 (株)アイザック 取締役最高顧問	夢をもとう ~ふるさととは心の根っこ~
12	29. 9.30(土)	富山県立魚津高等学校 1 学年 200 名	工藤 治 日本銀行富山事務所 事務所長	働くことの目的・目標・遣り甲斐
13	29.10.10(火)	高岡市立志貴野中学校 2 学年 204 名	西田 隆文 (株)ホクタテ 取締役社長	郷土をよく知り 世界を見よう
			川合 紀子 (有)ステップアップ 代表取締役	学びの先にあるもの
			牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	生きることは、働くこと
			尾山 謙二郎 マンパワーセキュリティ(株) 代表取締役	これからの生き方
			山崎 義明 (株)山崎製作所 取締役社長	「14 歳の挑戦」何に向かって挑戦するのか
			四十物 直之 (株)四十物昆布 取締役社長	「学校で教わらないこと」郷土の偉人等
14	29.10.28(土)	滑川市立滑川中学校 全学年 565 名	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	よりよく生きる

回	開催日	学校	講師(敬称略)	演題
15	30.2.1(木)	富山市立速星中学校 学年 331 名	遊道 義則 (株)ユニオンランチ 取締役社長	「変化」「成長」～変化に対応して成長する
16	30.2.1(木)	富山市立北部中学校 1学年 222 名	遊道 義則 (株)ユニオンランチ 取締役社長	「変化」「成長」～変化に対応して成長する

<平成 30 年度> 延べ 14 校に 31 名を派遣

回	開催日	学校	講師(敬称略)	演題
1	30.6.13(水)	氷見市立十三中学校 2 学年 32 名	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	働くこと、学ぶこと
2	30.6.28(木)	高岡市立牧野中学校 2 学年 70 名	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	よりよく生きる
3	30.7.2(月)	南砺市立井波中学校 3 学年 76 名	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	ふるさとを知る
4	30.7.18(水)	高岡市立戸出中学校 2 学年 131 名	堀田 信一 日本海ツーリスト(株) 取締役社長	人生、プラス発想で
5	30.8.1(水)	砺波市立庄川中学校 3 学年 67 名	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	よりよく生きる
6	30.9.29(土)	富山県立魚津高等学校 1 学年 160 名	山野 昌道 (株)チューリップテレビ 専務取締役	自分の夢のを見つけ方
7	30.10.16(火)	高岡市立志貴野中学校 2 学年 193 名	尾山 謙二郎 マンパワーセキュリティ(株) 代表取締役	これからの生き方
			堀田 信一 日本海ツーリスト(株) 取締役社長	人生、プラス発想で
			福崎 秀樹 (株)フクール 代表取締役	AI時代を生きる
			大橋 聡司 大高建設(株) 取締役社長	働くこととは
			高瀬 幸忠 スカイインテック(株) 専務取締役	「変わる」→「変える」
8	30.10.24(水)	滑川市立寺家小学校 6 学年 40 名	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	ふるさとを知ろう！
9	30.10.30(火) 30.11.6(火)	富山県立富山商業高校 3 学年 40 名(3 年 3 組)	庭田 幸恵 (株)プラチナコンシェルジュ 代表取締役	新社会人に向けて
10	30.11.30(金)	射水市立大門中学校 全学年 750 名	山野 昌道 (株)チューリップテレビ 専務取締役	人生を楽しくする3つのコツ
	30.12.7(金)	射水市立大門中学校 1 学年、2 学年 500 名	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	よりよく生きる
11	31.1.24(木)	富山市立北部中学校 1 学年 176 名	遊道 義則 (株)ユニオンランチ 取締役社長	働くということ

回	開催日	学校	講師(敬称略)	演題
12	31.2.7(木)	富山市立速星中学校 1学年 330名	市森 友明 (株)新日本コンサルタント 取締役社長	学習の目的を知って努力を楽しくしよう
			伊東 潤一郎 アイティオ(株) 取締役社長	働くことと幸せになること
			尾山 謙二郎 マンパワーセキュリティ(株) 代表取締役	生きる力を学ぶ
			庭田 幸恵 (株)プラチナコンシェルジュ 代表取締役	失敗も不安も夢の途中
			福崎 秀樹 (株)フクール 代表取締役	A I時代を生きる
			田村 元宏 (株)タムラ設計. 代表取締役	生き方を学ぶ
			林 和夫 朝日建設(株) 取締役社長	生きること。学ぶこと。 働くこと。
			山崎 義明 (株)山崎製作所 取締役社長	生き方を学ぶ
			遊道 義則 (株)ユニオンランチ 取締役社長	生き方を学ぶ
13	31.2.13(水)	富山市立大沢野中学校 1学年 174名	遊道 義則 (株)ユニオンランチ 取締役社長	働くということ
14	31.2.14(木)	富山県立富山商業高校 1学年 200名	福崎 秀樹 (株)フクール 代表取締役	予想される仕事の変化～ 業界の仕事
			神崎 直志 三井物産(株) 北陸支店長	
15	31.2.15(金)	富山県立富山商業高校 1学年 200名	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	
			櫻見 昭一 (株)北國銀行 執行役員富山支店長	
			川合 紀子 (有)ステップアップ 代表取締役	

2 教育講演実績一覧

<平成 29 年度>

回	開催日	団体等	講師(敬称略)	演題
1	29. 8. 22(火)	朝日町小中学校校長会朝日町学校教育運営研修会	米屋 慎一 北星ゴム工業(株) 取締役社長	「私が会社で実践していること」 ～社長から社員へのメッセージ～
2	29.10. 5(木)	富山県教育委員会進路指導研修会	大橋 聡司 大高建設(株) 取締役社長	今、社会に求められる人財とは
3	29.12. 4(月)	富山県立砺波高等学校	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	社会で求められる人材とその育成に携わる学校、教師に期待すること
4	30. 2.20(火)	南砺市小学校長会	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	未来のために

<平成 30 年度>

回	開催日	団体等	講師(敬称略)	演題
1	30.8.22(水)	黒部市小中学校経営研修会	伊東 潤一郎 アイティオ(株) 取締役社長	中小企業のものづくりと人材育成
2	30.8.24(金)	朝日町小中高校教育研究協議会	伊東 潤一郎 アイティオ(株) 取締役社長	中小企業のものづくりと人材育成
3	30.10.4(木)	富山県教育委員会進路指導研修会	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	AI時代への布石
4	30.11.22(木)	富山県高等学校教頭会	中尾 哲雄 (株)アイザック 取締役相談役	働くということ
5	30.12.7(金)	富山市立桜谷小学校	牧田 和樹 (株)牧田組 取締役社長	今、教員に期待すること
6	31.2.19(火)	砺波地区内小学校長会	伊東 潤一郎 アイティオ(株) 取締役社長	中小企業のものづくりとひとづくり

3 各回のレポート

(1) 課外授業

〈平成29年度〉

第1回 富山市立和合中学校

4月26日(水)、山野昌道氏(株)チューリップテレビ専務取締役)が富山市立和合中学校において、全学年330名を前に、「人生を楽しむ3つのコツ」と題して課外授業を行った。

山野専務は、自身がアナウンサーを目指していたことについて触れ、「夢を持ちなさいと言われるが、簡単には見つからない。でもそれで構わない、夢はどんどん変わっていくから。夢を見つけるために考え続け、一日一日を一生懸命に生きることが大切」と強調した。

また、「やりがいのある仕事は、辛い、厳しいものであるが、苦しかったから報われる瞬間がある。苦労が大きければやりがいも大きく、最後は苦労がやりがいに変わる。思い出話は“大変だった仕事”で盛り上がる」と話し、「努力した人は全て成功するわけではないが成功した人

は全て努力している」と努力の大切さを訴えた。

人生を楽しむための3つのコツとして、①迷ったらやる、②人のせいにし

ない、③何をやってもうまくいくと考える(ポジティブシンキング)をあげ、「選択に迷った時、どちらが正しい選択だったのかは一生わからない。だから、自分が選んだほうを正解にしていこう」と熱く語った。

最後に東京オリンピックの話題に触れ、昔から「オリンピックは参加することに意義がある」と言われている。実はこれには続きがあって、「人生で重要なのは勝つことでなく努力することにある」と強調し授業を締めくくった。



「努力することが大切」と語る山野専務

第2回 小矢部市立津沢中学校

5月31日(水)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が小矢部市立津沢中学校において、2学年43名を前に、「働くとは」と題して課外授業を行った。

牧田社長はまず、「将来、ある職業に就きたいと思った時に、その職業に就いて、何をしたいのかをはっきりさせておかなければいけない」とし、「何のために高校に行くのか。高校生になるためではない、将来自分が何になりたいのか、何をしたいのか、それを見据えて、今どうするべきなのかを考え、その結果、高校に進学するという選択肢を選ぶことが大事である」と強調した。

さらに「勉強が嫌いだとしても、将来何をしたいのかという目的がしっかりしていれば、頑張ることができる。目的をもって取り組み、努力すれば、その成果は必ず出る」と熱く語った。

また、「14歳の挑戦」に向け、「企業の目的は、客の役に立つこと。皆さんが企業に行った時には、その企業の役に立つよう考えながら精一杯努めることが大切」、また、「企業の中では、相手の立場になって考えることがポイント。これが、あいつや返事をきちんとすることにもつながる」とアドバイスした。

最後に、「君たちは何にでも挑戦できる。成果を出したければ努力すること！才能よりも努力することが大切。これを忘れず、中学校生活を送ってほしい」と熱く語りかけ、授業を締めくくった。



「才能よりも努力！」と強調する牧田社長

第3回 富山市立奥田中学校

6月12日(月)、翠田章男氏(株)トンボ飲料取締役社長)が富山市立奥田中学校において、2学年233名を前に、「人生について、職業について」と題して課外授業を行った。

翠田社長はまず、「自分らしさとは、“探す”ものではなく、自分で創り出すものである。“自分探しの旅”で見つけるものではない」とし、「最初は仕事がおもしろくないと思うことがあるかもしれないが、次第にどんどん上達していき、それが自分らしさになる」と語った。次に、人生観と職業観に触れ、「仕事の報酬は給料だけではない。①知識、能力、技術が得られる ②社会に役立つ働きがい得られる ③人間として成長できる、この3つが報酬として得られる。一方、人生の3つの喜びとは、①自分が成長できる喜び ②人の役に立つ喜び ③自分の人格を磨く喜び、こ

の3つであり、仕事の報酬と人生の喜びはリンクしている、つまり、人が得たいと思う喜びは、全て仕事により得られる」と、仕事の意義について熱く語った。

さらに、「夢は大きく、行動は小さく確実に。登山は山頂ばかり見て登るとつらい。一步一步、歩みを進めて目標に近づくことが大切。14歳の挑戦は社会に触れる最初の機会であり、是非いろいろ学んでほしい」とエールを贈り、最後に、株式会社トンボ飲料の経営理念の一節、「我々は難度の高い仕事に取り組むことにより、人間として成長する」を紹介し、授業を締めくくった。



「自分らしさは自分で創るもの」と語る翠田社長

第4回 富山市立堀川中学校

6月19日(月)、遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長)が富山市立堀川中学校において、2学年315名を前に、「働くということ」～志高く生きる～と題して課外授業を行った。

遊道社長は、まず、「自分の可能性を信じ、持てるだけの選択肢を持ち、積極的に成長しよう!」と強く語った。続いて、「目標」と「目的」の違いについて、「『目標』は、『いつまでに何をどうするか』、という『達成するもの』であり、『目的』は、『誰のために、何のために』ということ『追求するもの』である」と説明し、「人生の目的を早く見つけた方が、目標を設定しやすい。もし目的が見つからなくても、目標を達成することで目的が見えてくる」と語った。さらに、「世の中の全ての仕事は誰かの役に立っている。仕事をする中で、人の役に立てることに喜びやうれしさを感じ、働きがい、やりがいを感じる事ができれば、幸せになれる。

自分自身に誇りを持って、「貢献」することに幸せを感じる人生を送ってほしい」とし、「どんな職業に就いたかはそれほど問題ではない。誰のためにどう働くか、何のために役に立ちたいのか、それが重要である」と強調した。



「人生の目的を早く見つけよう」と語る遊道社長

最後に、アメリカの心理学者ロバート・ディルツの「英雄の旅」を紹介し、「自分がこの世界で生きていくと実感し、何事にも代えがたい恩恵を被りながら人生を過ごすこと、誰しもがこのような『英雄の旅』に出ることができるとし、「常に、素直な、元気な、真剣な、一生懸命な心を持ち続け、『英雄の旅』に出てほしい」と締めくくり、授業を終えた。

第5回 氷見市立十三中学校

平成29年6月20日(火)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が氷見市立十三中学校において、2学年35名を前に、「働くことは楽しいか」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長はまず、「生きる」と「生活する」の違いを説明し「生活する」とは生きていることを活かすこととし、目的が必要とした。

次に、君たちは生活していて楽しい?勉強していて楽しい?と問いかけ、ほとんどの生徒が楽しくないと答えると、どうしたら楽しくなるかみんな考えてようとして提案した。ゲームが楽しいとの意見に、ゲームの楽しさはクリアしていくから、自分の力で結果が出せるからだ説明。また、本を読むときにただ目で追っていくのではなく、「何でだろう?」と立ち止まり「そうなんだと納得する」この過程がゲームのクリアに相当すると説明。勉強でも何でだろうと思えば、そうなんだと納得する。この過程で脳にインプットされるので、どんどん勉強が楽しくなるはずだ。成長した自分が認められると楽しくなる

と述べた。

続けて、一日24時間の内、多くの時間を過ごす学校が楽しくなかったらもったいない。楽しく過ごすためには目的を持つことが必要とした。さらに、商売の大原則はお客様の役に立つものを売り代金を受けることであり、会社がお客様の役に立たなければ成り立たないとし、人は社会の役に立つことを目的とすることが重要と訴えた。



「楽しく生活しよう」と語る牧田社長

まとめとして、目的・目標は楽しむために持つもので、目的・目標をクリアできる自分を認めることで楽しくなることができるとした。

14歳の挑戦では、この会社は社会にどのように役に立っていますか?と聞くことを勧め、14歳の挑戦が楽しくなることを願い授業を締めくくった。

第6回 高岡市立牧野中学校

6月26日(月)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が高岡市立牧野中学校において、2学年55名を前に、「働くとは」と題して課外授業を行った。

牧田社長は冒頭、「君たちに考えてほしいキーワード、それは“何のために?”ということ。例えば、医者になりたいのは何のためにか。ただ医者になりたいということではなく、医者になって“何をしたいか”が大事なのだ」、また、「これから社会に出て仕事をしていくうえで忘れないでほしいのは、何のためにその仕事があるのかということ。をいつも考えるということだ」と力を込めて語った。さらに、「君たちが日々充実して過ごすことができるコツは、将来何をしたいのかを考えることである。人を助けたいから医者になりたいと思ったら、今何をしなければいけないのか自ずと分かるし、将来なりたいたいものかを考えることができれば、

それに向かって苦しいことも乗り越えられる」と強調した。

また、「14歳の挑戦」で学んでほしいこととして、「その企業が、何のためにその仕事をしているのか、何で社会の役に立っているのかを見てほしい。このことが、君たちがどんなものになりたいかを考えるヒントになる」とアドバイスした。



「何のために?」を考えよう」と語る牧田社長

最後に、「“何のために?”つまり“目的”が理解できるようになれば、君たちは強くなれる。是非、社会から必要とされる人間になって、楽しく働いている姿を見せてほしい」とエールを贈り、授業を締めくくった。

第7回 射水市立新湊南部中学校

7月3日(月)、森藤正浩氏(正栄産業(株)代表取締役)が射水市立新湊南部中学校において、2学年76名を前に、「よりよく生きる 働くとは」と題して課外授業を行った。

森藤社長は、仕事とは何か？人生とは何か？と問いかけ、誰かの為になることを、誰かの為にすることで、お客様や周りの人に喜んでもらうことだと説明した。人生の1/3を費やす仕事を、お金を得る為だけに嫌々するのはもったいない。仕事に面白い、つまらないはなく、面白くする、つまらなくする考え方があるだけだと語った。

続いて学生と社会人の違いについて触れ、学生は先生から学び、両親からお金をもらうが、社会人はお客様から学び、お客様からお金をいただくとして説明し、お客様を第一に考えることと、両親、祖父母が命のバトンを連綿と受け継ぎ、支えられて自分が今ここにいることへの感謝を忘れないでほしいと訴えた。

また、「人生の結果とは『能力×意欲×考え方』

であり、考え方が一番大切である」という稲盛和夫氏の言葉を紹介し、ものの見方、考え方を変えて目標を設定したら、目標に向かって計画を立てて行動し、それを習慣化させることで毎日少しでも自分を成長させようとコツコツ努力することがとても重要だと強調した。

最後に、多くの祖先が生きた延長線上にいる自分がどれほど素晴らしい存在かを理解し、14歳の君たちは何にでもなれる能力を秘めており、自分の可能性を信じてほしいとまとめ、輝かしい未来に向かって、今から、ここから、自分からどう変わって行こうかを考えながら毎日を大切に過ごしてほしいと、「人生は今から、ここから、自分から」と言う言葉を贈り授業を締めくくった。



「自分の可能性を信じて」と語る森藤社長

第8回 高岡市立戸出中学校

7月18日(火)、堀田信一氏(日本海ツーリスト(株)取締役社長)が高岡市立戸出中学校において、2学年124名を前に、「人生 プラス発想で」と題して課外授業を行った。

堀田社長は、自身が経営している旅行会社を「人づくり集団」ととらえ、顧客満足・社員満足・会社満足の3つの鉄則を掲げ、そのためには「人生、常にプラス発想」であることが大切であると強調した。

多くの人と接していく中で、成長している人の共通点として感じていることには、①自ら目標を掲げ、あらゆることに対して勉強熱心である(「PDCA-計画・行動・修正・検証-」を上手く活用している)こと、②素直な心(我慢、忍耐)を持っていること、③みんなのため

に役立つと努めていること、が挙げられると語った。

また、人は一人で成長できるものではなく、自分の周りの多くの人から学ぶこと

によって成長するものであることや、その場合でも、人の「欠点ではなく良いところ」を見て学び続けること、感謝の気持ちを持ち続けることの大切さについても訴えた。

最後に、「このような行動を地道に継続していける人こそが、幸せで豊かな人生を送ることができる」と締めくくった。



プラス発想で生きようと堀田社長

第9回 南砺市立福光東部小学校

9月13日(水)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が南砺市立福光東部小学校において、6学年66名を前に、「よりよく生きる」と題して課外授業を行った。

牧田社長は最初に、学校は楽しいか？勉強は楽しいか？と問いかけた。嫌いだという児童に対し、スーパーのレジ係の話として、仕事に楽しさを見いだせなかったレジ係が、お客さまを観察し、お客さまに合わせた会話をすることで、並んでもこのレジ係と会話したいというお客さまの声を聞き、嬉し涙を流した話を紹介。他人の役に立ち、認められることが自分の喜びにつながるかと説明した。

努力することで昨日できなかったことが今日できるようになる。できるようになると自分を認めることができ、楽しくなる。それは勉強でも運動でも同じで、その喜びをかみしめることを忘れないでほしいと訴えた。

続いて、教科書の読み方として、初めて知ったことを「そうなのか」と声に出して読むと頭に入ってくる。

すると、テストの点数が上がり、それが喜びとなって学校や勉強が楽しくなる。

これは勉強に限らず、世の中で活躍している人は自分で自分の成長を感じながら繰り返し努力している。努力は絶対に必要だと熱く語った。

最後に、わがままな人間は他人から認められない。どんな人間が認められるか考え、たくさんの友達を作ってほしい。友達が自分の力になると児童を激励し、授業を締めくくった。



「楽しい学校生活を」と牧田社長

第10回 立山町立雄山中学校

9月13日(水)、林和夫氏(朝日建設(株)取締役社長)が立山町立雄山中学校において、2学年245名を対象に、「生きること 学ぶこと 働くこと」と題して講演を行った。

林社長はまず、アンパンマンの歌(なんのために生まれて…こたえられないなんてそんなのはいやだ!)を例に、人間が活着ているのには必ず意味があることを強調した。続けて、105歳で亡くなった日野原重明先生の言葉「命とは、自分で使える時間のこと」を紹介し、「1日は86,400秒、時間を使うことで命が形になっているのだから、有意義に時間を使ってほしい。自分のためだけでなく人の役に立つことにも使おう」と語った。

次に、学ぶことについて、「よりよく生きるためには、よりよく知らなければならない。だから勉強するのだ」とし、さらに「能力は、才能×経験×意欲×考え方という掛け算である。この中で一番大切なのは『考え方』である。考え方がマイナス(思考)だと、能力は伸びない。

イチロー選手は、結果よりもプロセスが大事だという考え方をもち、これによって能力が伸びたのである」と熱く語った。



「働くことの意味を考えよう」と林社長

最後に、働くことについて、『『働く』の由来は、『傍を楽にする』、つまり、周囲の人を楽にするために動くということだ』と説明し、「人の役に立つ、人を楽にすることが働くということであり、お金を稼ぐことではない。命とは時間を使うこと、時間を有意義に使うこと、有意義に生きるとは、働くことである。お金を稼ぐために働くのではなく、人の役に立つ仕事をしたからお金をもらえるのだということを忘れないでほしい」と強調し、授業を締めくくった。

第11回 黒部市立鷹施中学校

9月22日(金)、特別顧問の中尾哲雄氏(株)アイザック取締役最高顧問)が黒部市立鷹施中学校において、創立50周年記念講演として1~3学年248名を前に、「夢をもとう ~ふるさは心の根っこ~」と題して課外授業を行った。

はじめに、自身が小学校2年生の頃に、妹と汽車で横浜から魚津に向かう途中、行き先を間違え、犀潟駅で途中下車した逸話を紹介した。いつ来るかわからない汽車を待ちながら途方に暮れていると、見知らぬ婦人からおにぎりとお菓子をもらった。しかし、その時お礼を言ったか気掛かりになり、高校1年生の夏休みにお礼を言い犀潟へ戻ったが、婦人は見つからなかった。

「世の中にはお世話になっていること自体に気づかないことがたくさんにある。皆さんは勉強を通じて、そして将来仕事を通じて社会への恩返しをしてほしい」と訴えた。

次に、自分の信条である「夢が人を輝かす」を紹介した。自身がこれまで抱いた夢を語りながら、「夢は変わっていくし、実現しなくても良い。夢に向かって努力をすることで人間は成長していく」と語り、夢をもって生きてほしいと呼びかけた。



続いて、会社見学に来た小学生や後援会長を

務めた盲学校(支援学校)の生徒が、自身の話を聞いたことをきっかけとして大学卒業後に会社に入社してきた時の胸が痛くなるような感動や、少年時代に皆でお金を出しあって買った赤バットを失くし、夜中の川原でようやく見つけた時の涙が出るような感激を語り、「感動や感激が心を豊かにする。本を読んで、美しい景色を見て、良い音楽を聴いて、あるいは友情で感動することもある。たくさん感動感激を積み重ねて豊かな人間になってほしい」と語りかけた。



「ふるさを大切に」と語る中尾最高顧問

また、「その日に感じたことを一日一行でも良いから日記につけてほしい。長い人生で日記を書き続けることが皆さんを大きな人間にしてくれる」と勧めた。

最後に、唱歌の「ふるさと」について触れ、「ふるさは心の根っこである。この鷹施中学校、黒部市、そして生まれた町に心の根っこを置いて、いつかここを巣立つ時が来ても、この地で学んだことや教えてくれた先生をいつまでも心に留め、ふるさとの風景を大切にしながら世界で活躍してほしい」と激励し、授業を締めくくった。

第12回 富山県立魚津高等学校

9月30日(土)、工藤治氏(日本銀行富山事務所長)が富山県立魚津高等学校において、1学年200名を対象に、「働くことの目的・目標・遣り甲斐」と題して講演を行った。

工藤事務所長はまず、自身の日本銀行での経歴や日本銀行の成り立ち、役割などについて詳細に説明した。

次に、働く目的について触れ、「単に収入を得るためだけに働くのではなく、仕事によって社会の役に立つということが大切。その仕事を通じていかに自己実現し、自分のモチベーションを高めていくかというのが、働く目標だ。働くことで自分の価値観、存在意義を高めていき、それを通じて、自分が大きく成長していく、スキルを得ていく、それを社会に還元していく。その結果として収入が得られるのが一番良い」と語った。

続けて、仕事の選択について、「ある程度早い段階から、どのような仕事をしてみたいかを考える必要がある。その際、企業のホームページの企業理念や経営方針、定款の中のポリシー

などもそのヒントになる」と説明した。

さらに、「日本銀行は、奴隷たれ」という、日本銀行の目的・理念を表している言葉を紹介し、現状をしっかりと把握し、将来をしっかりと見据えることの重要性を説いた。

最後に、今後何を学ぶべきかについて、「IT、AI(人工知能)が人間に代わって仕事をしてくれる時代に入ってくる。世の中の変化に耐える力、人間力とも言える力を身に付けるため、考える力、いろいろな人と積極的に話す、自分の考えを堂々と表明するコミュニケーション力を持つ必要がある。また、グローバル化の中にあって語学は重要。語学を身に付けていくことが、変化する世の中で自分の考え方を持つということの基礎になっていくので、ぜひ勉強してほしい」と強調し、授業を締めくくった。



「社会の役に立つことが仕事の目的である」と工藤事務所長

第13回 高岡市立志貴野中学校

10月10日(火)、西田隆文氏(株)ホクタテ取締役社長)が高岡市立志貴野中学校において、2年1組31名を前に、「郷土をよく知り 世界を見よう」と題して課外授業を行った。

西田社長は、「郷土のことを地元の人が案外知らない。郷土を知り、世界を知ることが大事。逆に世界を見て、故郷を理解し良さが解る」と語り、富山県の歴史文化に大きな影響を与えた三人を紹介した。

一人目の大伴家持は、万葉集4,516首のうち、473首を読み、その半数近くの223首が、越中の国守として赴任した5年間に詠まれ、越中で歌境を開いたことを解説した。

二人目として、井波瑞泉寺を開基した本願寺第5代綽如上人に触れ、瑞泉寺は3度の焼失の度に再建されて大きくなり、現在は全国4番目に大きな寺院であると述べた。

三人目に前田利長を紹介し、産業を興し高岡を開町、その後前田家は万葉集を編纂し、浄土

真宗を保護したことを解説した。

こうした歴史文化の礎となっているものが、自然の豊かさ、それに育まれた勤勉で誠実な人間性でないかと語った。

そして現在の「郷土を知ろう」と西田社長

高岡市、富山県は、所得や医療などの生活基盤が全国トップ水準であることや、安田善次郎や浅野総一郎など富山県出身の実業家を紹介し、夢をもって懸命に取り組めば、実現する環境があると訴えた。

最後に、イチロー選手が語った大記録を作る秘訣「目の前の為すべきことに全力で取り組むことが唯一で確実な方法」を紹介し、自分を大事にし、夢と希望をもって学校生活を送ってほしいと激励し、授業を締めくくった。



10月10日(火)、川合紀子氏(南)ステップアップ代表取締役)が高岡市立志貴野中学校において、2年2組32名を対象に、「学びの先にあるもの」と題して講演を行った。

川合代表はまず、14歳の挑戦に臨むにあたっての心構えとして、「笑顔であいさつコミュニケーション」これをしっかりとできれば、何も怖くない。企業は皆さんを歓迎している。積極的に何でも聞いて、できることはないか進んで声をかけよう」と呼びかけた。次に、「夢を描くには勉強が必要。将来なりたいものがあるから、夢があるから勉強すると考える。同じことをするなら少し発想を転換して、プラス思考で勉強を楽しく思えるようになってほしい」、また、「夢は、皆さんが頑張っただけで学んだ“ご褒美”、こうイメージすると学ぶことが楽しくなる。知らないことを知ってなるほどと思った時の喜び、こ

れが“ご褒美”になる」と熱く語った。

最後に、今から準備してほしいこととして、①礼儀作法を身に付ける、②人を尊重する、③様々な分野を学び知識を蓄え、善悪を判断できるようになることを挙げ、さらに、「これから皆さんには紆余曲折があるかもしれないが、それを乗り越える強さをもって、学び続け、そして学びの先を見てほしい」と激励し、授業を締めくくった。



「笑顔でチャレンジを」と川合代表

10月10日(火)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が高岡市立志貴野中学校において、2年3組33名を対象に、「生きることは、働くこと」と題して講演を行った。

牧田社長はまず、LINEでの友達とのやりとりを例に挙げ、「ほんの一行送っただけで、人間関係がダメになってしまうことがある。相手に送るときには、意に反し誤解を与えるような表現になっていないか、よく考えてほしい」と呼びかけた。また、「人と人との間には“間”があり、これを人間社会という。人間社会でよりよく生きるためには、人と人との間の見えない“間”の存在を理解することが大切であり、相手に対する思いやりの心を持てればうまくいく」とアドバイスした。続けて、「人の心には『for me』と『for you』という2つの領域があり、その間には動く壁がある。『for me』の領域が大きいと人はわがままになる。思いやりを發揮

するには、『for you』の領域を大きくする必要があり、そうするには、『for me』(わがまま)を抑えれば、自然に『for you』の領域が広がる。思いやりは、自分のわがままを抑えることで發揮できるのだ」と強調した。最後に、「皆さんが企業に行ったときに、感謝の気持ち、思いやりの心をもって臨めば、企業の人



「わがままを抑え思いやりを持とう」と牧田社長

は思いやりの心を返してくれる。ぜひ14歳の挑戦を頑張ってきてほしい」とエールを贈り、授業を締めくくった。

10月10日(火)、尾山謙二郎氏(マンパワーセキュリティー(株)代表取締役)が高岡市立志貴野中学校において、2年4組34名を対象に、「これからの生き方」と題して講演を行った。

尾山代表はまず、ドイツの心理学者エビングハウスの「忘却曲線」を紹介しながら、講義を聴いて心に残った話は忘れないように書き留め、できれば家でも話をしてもらいたいと呼びかけた。

次に、情報の危うさについて説明し、「情報の扱い次第で人間関係は簡単に崩れる。自分の目で見て耳で聞いた情報だけを信じるくせをつけてほしい」と訴えた。続けて、「挑戦して挫折を経験することは大切なことだ。やろうと思っ

さらに、「忙しい」は、心を亡くすと書く。忙しいばかり言う人は信頼されなくなる。皆さんは“忙しい”を口にせず



「やらずに後悔するより、やって反省!」と尾山代表

最後に、「仕事に貴賤はない。14歳の挑戦では“なんだこんな仕事”と思うだけでなく、興味を持って取り組み、自分に返ってくるものが全く違う」、さらに、「皆さんひとり一人に価値がある。自分を大切に

10月10日(火)、山崎義明氏(株)山崎製作所取締役社長)が高岡市立志貴野中学校において、2年5組33名を対象に、『14歳の挑戦』何に向かって挑戦するのか」と題して講演を行った。

山崎社長はまず、14歳という年齢に触れ、「皆さんの14歳という年齢で、これからの見通しを持ってと言われてもなかなか難しい。では何が皆さんの武器になるか」とい

持ってもらいたい」と強調した。次に、事前に実施したアンケートについて、「非常に正直に答えてくれた。そういう正直さは社会で武器になる、ぜひ失くさないようにしてほしい」と語り掛けた。



「感謝されることを体験してほしい」と山崎社長

最後に、14歳の挑戦について、「わくわくする気持ちを持って価値ある時間を過ごしてほしい。しっかり努め、認めてもらい、感謝されることを体験してきてほしい」と激励し、授業を締めくくった。

10月10日(火)、四十物直之氏(株四十物昆布取締役社長)が高岡市立志貴野中学校において、2年6組33名を対象に、『学校で教わらないこと』郷土の偉人等』と題して講演を行った。

四十物社長はまず、働くことについて、「経済的に自立するためだけではなく、自分を磨くため、社会に貢献するため、自己実現をするためのものである。また、働くとは、傍を楽にする、つまり周りの人を楽にするという意味もある」と語った。また、仕事について、「人に思いやりを持ち、当たり前のことをひとつずつ積み上げ、自分のやりたいことをしっかりやる、これが仕事である。いやいやするのではだめ、誇らしげにやらないと自分の実にはならない」と訴えた。次に、富山の偉人について紹介し、「偉大な先人を輩出している富山に誇りを持ってほ

しい。そして自分に自信を持ってほしい」、また、「歴史を学ぶのではなく、歴史“に”学ぶことが大事。先人の偉大さを感じて学べば、自尊心が高まり成長できる人間になれる」と熱く語った。最後に、「勉強は、己を磨き、人生を全うするためにするものだ。皆さんには無限の可能性がある。日本人の素晴らしさを胸に抱いて生きて行ってほしい」と激励し、授業を締めくくった。



「自分に自信を持って生きてほしい」と四十物社長

第14回 滑川市立滑川中学校

10月28日(土)、牧田和樹氏(株牧田組取締役社長)が滑川市立滑川中学校において、全学年及び教職員等約600名を前に、「よりよく生きる」と題して課外授業を行った。

牧田社長は、冒頭、生徒と一緒に手拍子し、「歌う側の準備として、指揮者に注目することだけでなく、周りのことに気を配ることも必要」と、合唱コンクールを控えた生徒へアドバイスした。

次に、人生を送るうえで重要なこととして、「昨日でできなかったことが、今日できるようになることを通じ、皆さんは成長している。成長していることをぜひ感じてほしい」と語った。

また、勉強が楽しくなる方法として「教科書を読むときに、言葉に出して“へえ、そうなんだ、なるほど”と言え、記憶のスイッチが入り君たちの脳にインプットされる。知ることができてうれしいという合図になる。ぜひ実践してほしい」と強調した。

続けて、「皆さんは、自分の進むべき方向を定めて努力することが大事。目標があるからこそ動くことができる。つまり、将来なりたいものに向かって頑張ることで、勉強も自分の目標のため



「日々自分の成長を確認しよう」と牧田社長

にやるんだという意味が出てくる。その方向を見定めながら毎日成長していることを確認することができれば、うれしくなり、頑張ることができる。この積み重ねがこれからの皆さんの人生をつくっていくのだ」と熱く語った。

最後に、「今できなくても、自分のペースでいつかできるようになればいい。中学校生活を大いに楽しんで立派な人間になってほしい」とエールを贈り、授業を締めくくった。

第15回 富山市立速星中学校

第16回 富山市立北部中学校

2月1日(木)、遊道義則氏(株ユニオンランチ取締役社長)が富山市立速星中学校(1学年333名)および同市立北部中学校(1学年222名)において、それぞれ『変化』と『成長』～変化に対応して成長する習慣を身に付けよう～』と題して課外授業を行った。

遊道社長は、まず、イギリスの哲学者ベーコンの格言をもとに、自らが発した言葉こそが現実となることが多く、自らの願望を実現するには、『自らの願望を具体的かつ肯定的に「決め」、それを周囲の人に「正直に」話すことで「わかち合い」、そして何事にも「集中」することが大切』と話し、自らが発する言葉の重要性について説いた。

そして、「人生は選択の連続である。時間の経過の中で常に何かを選択しながら自己実現を果たし、幸せに生きていくのが人生」と語った。

次に、人生において「変化」は常に起こるものであり、変化にどう対応していくかが重要とした。変化はストレスをもたらすため、人間はだれでも回避したいと思うが、変化は誰にでもクリアでき、『変化は起きるが対処できる』と自分自身にインプットしていくことが重要である』と強く訴えた。加えて、人間が成長する分野には、技術・知識・感性等があり、その中でも、朗らかかつ熱意をもって訴える遊道社長(速星中)



生徒たちに問いかける遊道社長(北部中)

ことに気付けるようになる「感性」の成長こそが大切とした。ただ、その成長を妨げるものとして、傲然さや卑下があり、これらは、変化を避ける人に顕著となるものとした。これを踏まえ、改めて「変化は恐れなくて良いとインプットしておくことが肝要」と訴えた。

続けて、「目標」と「目的」の違いについて、『「目標」は、『いつまでに何をどうする』という「達成するもの」であり、『目的』は、『誰のために、何のために』ということを『追求するもの』である』と説明し、「人生の目的を早く見つけた方が、目標を設定しやすい。もし目的が見つからなくても、目標を達成することで目的が見えてくる」と熱く語った。

そして、全ての「結果(have)」は、ある「行動(do)」によりもたらされ、その行動は、「あり方(be)」の影響を強く受け、「誰のために、何のために」こそが「あり方」そのものであるとした。「あり方」を常に念頭に置き、問い直すことが極めて重要だと説いた。

最後に、「これから生きていく中で、他者の話を聴き、物事を良く考え、仕事や勉強に取り組んでいくことと思うが、『誰のために何のために生きるのか』という意識を持ち、これからの毎日を過ごして行って欲しい」と締めくくり、授業を終えた。

〈平成30年度〉

第1回 氷見市立十三中学校

平成30年6月13日(水)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が氷見市立十三中学校において、2学年32名を前に、「働くこと、学ぶこと」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長は、まず、今の時点で、こんな仕事に就きたいと心の中で決めている人はどれくらいいるのか、次にその職業に就いて何をしたいのか、何故それをしたのかを問いかけた。

生徒たちの答えを聞いた後、こんな仕事に就きたいということは意外と簡単に言えるが、仕事に就くということは手段にすぎず、本当に大事なことは、その仕事に就いて何をするのかという目的であり、それを考えることが大切であると説明した。

また、人間は常に選択しており、どのような要素で判断するかというと「利便性が高い」=「役に立つこと」であると、これが仕事の基本であり、その仕事が自分にとって本当に選ぶべきものかどうかという判断基準であると語った。

最後に、これから生徒たちが参加する14歳の挑戦では、短い日程の中で目の前にある与えられた仕事があまくなることを目指すのではなく、

①なぜその仕事をするのか、②その仕事はどんなことに役立っているのかということを考えてほしいとアドバイスした。

質疑応答の中で、中学時代にしておくべきことを問われた牧田社長は「勉強」であると答えた。

職業はなりたいたいという思いだけでなれるものではなく、そのためにはいろいろな身につけなければならないことがあり、義務教育の9年間で教えられることを身につければいつでも社会に出ることができる、今は役に立たないと思っていることでも将来必ず役に立つと説いた。

また、自身の仕事に臨む思いについて聞かれた牧田社長は「社会は自分と自分以外の人とで成り立っている、自分もよくなり相手もよくなるということを常に意識している」と答え、「これが仕事における人間関係の基本である」と締めくくった。



「仕事の目的を考えよう」と
牧田社長

第2回 高岡市立牧野中学校

平成30年6月28日(木)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が高岡市立牧野中学校において、2学年70名を前に、「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長は、最初に、生徒たちに「生きているのか」「生活しているのか」と問いかけた後、「生きる」と「生活する」の違いについて、「生きる」ということは、ご飯を食べたり寝たりして時間を過ごし、ただ単に生きているということ、「生活する」とは、これに「遊ぶ」「勉強する」「働く」などの活動がプラスされることであると説明した。

続けて、人間は生きているだけでは楽しいと感じることはなく、活動しているからこそ楽しいと感じるものであり、この違いは「目的」があるかどうかであると述べた。目的を持って活動することにより初めて成果を得ることができ、その成果によって自分自身の存在が認められ、時に楽しさや嬉しさを感じることができるとし、「目的」を持つことの大事さを説き、働くことにおいても楽しくなければならぬと語った。

そして14歳の挑戦に参加するにあたり、自分

が行くことになる企業がどんな目的でその仕事をしているのか、成果を出すためにどんな努力をしているのか、その成果は人の役に立っているのかということを見てほしいとし、それが自分の将来の職業を考える時に参考になると語った。

講演後の質疑応答で、仕事をしていてよかったことについて尋ねられた牧田社長は、成果を出して自分が認められることであると答えた。また仕事でこれまでつらいと思った事はあるかと問われた牧田社長は、もちろんあるがそれをつらい、苦しいで終わらせずに、挑戦だと思いうことにしており、発想を転換することが大事であると説いた。

最後に牧田社長は、「充実した中学生生活を送れるよう、目いっぱい楽しんでほしい」とエールを送り、授業を終えた。



「楽しく生きるために目的を持とう」と牧田社長

第3回 南砺市立井波中学校

平成30年7月2日(月)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が南砺市立井波中学校において、3学年76名を前に、「ふるさとを知る」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長は、「井波の良いところは何か」と問いかけたうえで、何かをアピールするときは、本当に良いものは何かということをしちんと知ることが大切であり、いろいろな情報を自分の目、感覚、物差しで他と比べ、確かめることが重要であると語った。

次に、「まちの元気」とは賑やかで活気があることとし、それには「人」が絶対に必要な条件で、人の出入りに伴って交流が生まれ、まちが元気になると述べた。そして、たとえ人の交通インフラの整備が進んでいない等不便な状況であっても、そのまちに人が来るべき「価値」があれば良いとし、現状を打ち破る価値を見出すことが重要であると説いた。

さらに、ふるさとについて考える時に、今後の自分の進路やどんな大人になっていくのかに

ついて一緒に考えてほしいと語り、生まれ育ったふるさとの環境が生活や行動、考え方に何らかの影響を与えており、ふるさとについて考えることであらためてこういうことを知るだけでなく、ふるさとに対する愛着も生まれてくると述べた。

最後に、中学3年の時にふるさとについて学ぶ機会を得たということは非常に大事なことであり、いろいろなものと比較しながらふるさとを知るといことは、まちを元気にすることにもつながるだけでなく、自分のルーツを知ることや、これからの人生の道筋を与えてくれることにもなると強調し、根っことはふるさとにあることを忘れないでほしいと締めくくった。



ふるさとについて学ぶ大切さを語る牧田社長

第4回 高岡市立戸出中学校

平成30年7月18日(水)、堀田信一氏(日本海ツーリスト(株)取締役社長)が高岡市立戸出中学校において、2学年131名を前に、「人生、プラス発想で」をテーマに課外授業を行った。

堀田社長は、まず、中学2年生は悩みも多いが、いろいろと勉強できる時期でもあるとしたうえで、失敗はしてもいい、失敗するから次はどうしたら失敗しないで済むかを考える、失敗するから次にうまく行くというプラス思考を持って、失敗を恐れずいろんなことに挑戦して欲しいと強調した。

次に、自社の経営において「顧客満足」「社員満足」「株主満足」の3つを鉄則とし成長と進化を目指しているいろんなことに挑戦していると語り、そのために「強い人財」づくりに力を入れていると述べたうえで、伸びる人の共通点について、目標がはっきりしており、やればできるというプラス発想を持っている、勉強熱心で自ら進んでいろんな人から教わることができ、素直な心と我慢・忍耐とを合わせ持ち、みんなの為にという気持ちを持っていることを挙げた。

さらに、どうすればいいのか迷った時の判断が難しいが、失敗を恐れたり、うまく行かないだろう思ったりして挑戦しなかったら、ますます大きな失敗をする」と強調し、適切な判断をするためにもいろんなことを経験しておくことが必要であると述べた。

そして、目標を達成するためには、才能よりも継続的な努力が必要であるが、自分だけで頑張るのではなく、周りの人から学ぶことが必要であるとし、人との交流の重要性を強調した。また、すぐに目標を達成できなくてもいつかうまくいくというプラス思考を持つとともに、なぜその目標を達成したいのかということについても考えることが必要であると述べた。最後に、「一回きりの人生、一生勉強しよう」という気持ちを持ち続けよう」と締めくくった。



「失敗を恐れず挑戦しよう」と堀田社長

第5回 砺波市立庄川中学校

平成30年8月1日(水)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が砺波市立庄川中学校において、3学年64名を前に、「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

はじめに、牧田社長は目的を持つことの大切さについて語った。自身も高校時代は高校に入学したことで満足してしまい勉強に力が入らなかったが、大学を選ぶ際に初めて自分の将来について考えたところ、それまではなかった目的というものがあるものとなり、それに向かって進むことが実感できることにより勉強が楽しくなり、成績も良くなっていったと述べた。そして、生徒たちに、勉強に力が入っているか、周りがするからといって無理やりに力を入れているか問いかけ、どうせやるなら何のためにやるのかをはっきりさせて楽しくやろうと語った。

次に、世の中の仕組みとして自分以外の誰かの役に立つということがないとあらゆる仕事は成り立たないとし、持つべき目的は人から「すごい」と言われるようなことではなく、「あり

がとう」と言われるようなことであり、どんなことで誰の役に立つかということを中心にとらえて目的を持たなければならない」と強調した。

さらに、努力しないで成果が出ることは絶対になく、勉強でもスポーツでも何でも目的を持った後は、その目的に向かって努力することが重要であると強調し、また、今もし目的が決まっていなくても、与えられていること、やらなければならないことに全力を注がなければならないと語った。

最後に中学三年の今は大事な時期であり、過ごし方次第で残り数ヶ月の中学校生活で人生は大きく変わるとし、目的を持って充実した毎日を過ごしてほしいとエールを送って授業を締めくくった。



「『ありがとう』と言われることが大事」と牧田社長

第6回 富山県立魚津高等学校

平成30年9月29日(土)、山野昌道氏(株)チューリップテレビ専務取締役)が富山県立魚津高等学校において、1学年160名を前に、「自分の夢のを見つけ方」をテーマに課外授業を行った。

山野専務は、はじめに「働くとは何か」について、「何らかの役割を果たし社会を作っていくことが社会人になるということであり、社会の一翼を担うということが働くということである」と語った。

次に自身がミュージシャン、アナウンサーを目指していたことに触れ、「夢を持つことは簡単ではないが、だからといって夢を持たなくていいということではない。自分のしたいことが何かわからなくても一日一日を一生懸命に生き、考え、行動し続けることが大切である」と述べた。

さらに、仕事の「やりがい」について、苦労や努力こそがやりがいであり、感動そのものであるとし、人から与えられるものでなく、自分

で作るものだと強調した。

そして「人生はどうしたら楽しくなるのか」について、音楽バンドの大会で賞をとったことを紹介し、大会に出るといふ行動があったからこそ嬉しい結果を得ることができた」と述べ、行動することの重要性を説いた。

最後に、「自分の夢のを見つけ方」として「知識を得る」、「大人に聞く」、「やってみる」、「目の前のことに真剣に取り組む」ことが大切であると語り、「人生において選択したことが、正しいかどうかは一生わからない。選んだ方が正解になるよう行動していくことが大事」として講演を締めくくった。



「充実した未来のために今を頑張ろう」と山野専務

第7回 高岡市立志貴野中学校

平成30年10月16日(月)、尾山謙二郎氏(マンパワーセキュリティ(株)代表取締役)が高岡市立志貴野中学校において、2年1組37名を前に、「これからの生き方」をテーマに課外授業を行った。

尾山社長は、はじめに、今までの社会は責任者を頂点に負うべき責任に軽重があるが、これからの社会は皆が同じ責任を持つことになる。としたうえで、情報があふれる中、自分の目、耳を使って正しいものを選択していくことが必要であると述べた。

続けて、生きていくうえで大切なことは、まず「挑戦すること」を挙げ、「人生では失敗を恐れず多くのことに挑戦してほしい。失敗がないということは挑戦していないということ。失敗したら反省し、後悔はしない。失敗を誰かのせいにするのは自分の成長する機会を奪う」と語り、「失敗を糧に挑戦し続けることが自分を成長させる」と述べた。また「人の目を気に

せず生きることに大切であるとし、杉原千畝氏が国の命令に反しても自らの信念に基づき多くの人命を救ったエピソードを紹介し、「空気を読むことも大切だが、自らを信じて突き進んでいくことも大切」と強調した。



「しんどい先にチャンスがある」と尾山社長

そして、石田三成の三献茶のエピソードに触れ、相手のことを考える細かな心配りが重要とし、14歳の挑戦では「仕事の奥にあるものを感じ取ってきてほしい」と説いた。

最後に、「『夜明け前は漆黒の闇』で一番暗いが、まもなく必ず夜明けがくる。そういう気持ちで物事に挑戦し続けてほしい」と激励した。

平成30年10月16日(月)、堀田信一氏(日本海ツアー(株)取締役社長)が高岡市立志貴野中学校において、2年2組38名を前に、「人生、プラス発想で」をテーマに課外授業を行った。

堀田社長は、まず、自社において「すべてをプラス発想で考える」を一番大事なキーワードにしていることに触れ、「前向きに考えると、できそうにないこともできるようになるかもしれない」と述べた。

また、企業が成長するために常に挑戦することを心がけているとし、「成果が得られるかどうかは大きな問題でなく、まずはやってみることが重要」と強調した。

次に、人は失敗を恐れるあまり目標を他人に見せず自分の心の中にしまいこんでしまうが、伸びるためには目標が誰からも分かるよう明らかにし、プラス発想で考え、様々なことに好奇

心を持って臨み、素直な心で物事に接することが大事であると説いた。さらに、「大切なのはみんなの為にという気持ち」であり、「自分一人だけでは成長できないが、いろいろな人に助けをもらい努力することではじめて成長でき、人のためにも頑張ろうという気持ちになる」と語った。



「成長するには失敗も大事」と堀田社長

最後に、求められるのは強さ、賢さではなく、世の中の変化に対応できるかどうかであるとし、そのためにも「学校の勉強だけでなく幅広く社会のことを学んでいこう」とエールを送った。

平成30年10月16日(月)、福崎秀樹氏(株)フクール代表取締役)が高岡市立志貴野中学校において、2年3組37名を前に、「AI時代を生きる」をテーマに課外授業を行った。

福崎代表は、はじめに、これからの社会は指数関数的に技術が進んでいき、今ある仕事の約半分がAIに取って代わられると言われていることに触れ、社会のあらゆるものが変化する中、幸福感というものは自らが未来を切り開いていくことで得られるもので、誰もが未来を切り開いていける大きな可能性を持っていると述べた。

さらに、これからは気付く、考える、行動する、反省する、共感する、感動する、感謝するといった人間が持っている特質である「人間性」と、観察力、洞察力、分析力、創造力などの人間性を高めていくための「人間力」が重視されるとし、学校の勉強も大事だが、それ以外の生き方、あり方などが未来を左右する重要なものになると強調した。

そして、これからの生き方について「考える」、「話す」、「人と関わる」の3つを挙げ、何にでも興味を持ち、どういうことなのかを考え、気付いたり感じたりしたことを人に伝え、自分とは異なる人と関わり人間力を磨くことが大切であると説いた。



「今、この瞬間を一生懸命生きよう」と福崎代表

最後に、「夢というのは職業だけじゃない。好きなことを追求していけば本質が見えてくる。人生は自分がやったことでしか築かれない。結果の良し悪しではなく一生懸命やるのが大事。それがAIに勝つ人間力を創る」と熱く語った。

平成30年10月16日(月)、大橋聡司氏(大高建設(株)取締役社長)が高岡市立志貴野中学校において、2年4組39名を前に、「働くこととは」をテーマに課外授業を行った。

大橋社長は、14歳の挑戦にあたり、まず一番大事なことは挨拶であるとし、仕事をするうえでコミュニケーションは不可欠であるが、良質なコミュニケーションをとるためには挨拶が重要であると語った。

次に、「働く」とは「人」が「動く」ことであるが、どう動くかという傍(はた)を楽(らく)にするように動くことであり、さらに、「人」という字の形が支え合っているように見えることに触れ、働くということは単独でするものでなく、人と人が支え合い協力しながら社会のためにするものであると説いた。また、自分自身で努力することは非常に重要であるが、他人から自分を支えてくれる力を得ることも大事であり、そのためにも、挨拶、コミュニケーションが重要な役割を持つと説いた。

そして、自身の会社で、「存在感謝」、いろんなものに感謝しましょうということを若い社員に教えていることを紹介し、そのような気持ちを持って、物事を前向きにとらえることができ、自分自身の成長につながると語った。



「心を込めて挨拶をしよう」と大橋社長

最後に、「働く目的の中には幸せな人生を送ることがあると思うが、人のために動くことによって、人から感謝の言葉を伝えられる、これに勝る幸せはない」と強調し、「14歳の挑戦では失敗を恐れずいろんなことにチャレンジしてほしい。挨拶がしっかりできれば大丈夫」と激励した。

平成30年10月16日(月)、高瀬幸忠氏(株)スカイインテック専務取締役)が高岡市立志貴野中学校において、2年5組37名を前に、「『変わる』→『変える』」をテーマに課外授業を行った。

高瀬専務は、はじめに、アメリカの研究者であるキャシー・デビットソンの「2011年度にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%が、将来、今存在していない職業に就く」という予測に触れ、「今の子供たちは将来、いろんな新しい仕組みを世の中に生み出していくことになる。自然に『変わる』のではなく、自分の意志で『変える』ことが重要である」と説いた。

そして、これまでの自らを振り返り、東京、福岡、新潟、金沢、岡山など各地で生活し、富山にも1年間住んでいたことを紹介し、このときの経験がのちに富山で就職したいという気持ちにつながったと語った。

次に会社に入ってから学んだこととして「挨拶の大切さ」を挙げ、「『挨拶』は押すこと、『挨拶』は押し返すこと、挨拶はコミュニケーションの

原則であり、大人でも子供でも全ての始まりは挨拶」と語った。さらに「働くことは感謝すること」だと教わったとし、仕事は人から喜んでもらえるものでありたいと強調した。



「Just Try (とにかくやってみよう)」と高瀬専務

最後に、幸運をつかむことができるのは情熱を持ってそれを探し求めている人であるとし、「Be daring, Be first, Be different」(勇気を持って、誰よりも先に、人と違ったことをしてみよう)という自身の好きな言葉を添え、「いろんな人との縁を大切に、いろんなことに挑戦して、世の中に新しいものを作りだしてほしい」と激励した。

第8回 滑川市立寺家小学校

平成30年10月24日(水)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が滑川市立寺家小学校において、6学年40名を前に、「ふるさとを知ろう!」をテーマに課外授業を行った。

はじめに牧田社長は、滑川市と富山市のどちらが楽しいかを比較させようと、なぜそう思うかを問いかけた。そして、「比べる」ことには基準のあるものとなないものがあり、明確な基準のない「もの」や「こと」を比較する場合は基準を作ればいいが、何がその基準になり得るのかをよく考えることが大事であると語った。

また、基準を考えるうえで大切なのは「好奇心」であるとし、普段の生活の中での何気ない物事についても何でそうなのかと考え、疑問に思ったら追求する習慣を身に付けてほしいと説いた。

さらに、物事を比較する場合には、それ自身についてよく知っていなければならないとし、「今ふるさとについて勉強しているのは、これから将来いろんな出来事に遭遇した時、比較する際の基準になるものがふるさとだからであり、それが皆さんの『根っこ』、『ルーツ』と言われるものになっていく」と述べた。



「しっかり学んでふるさとを大切にしよう」と牧田社長

最後に、「今までふるさとで過ごしてきた時間が一番の宝。その積み重ねが思い出という財産となって心に刻まれて、皆さんを作っていく」と話し、講演を締めくくった。

第9回 富山県立富山商業高等学校

平成30年10月30日(火)、11月6日(火)の二日間にわたり、庭田幸恵氏(株)プラチナコンシェルジュ代表取締役)が富山県立富山商業高等学校において、3年3組40名を対象に「新社会人に向けて」をテーマに課外授業を行った。

庭田代表は、はじめに、「人生の脚本家は自分自身である」と述べ、生徒たちへの応援メッセージとして「百折不撓」という言葉を紹介し、何度失敗しても周りが何と言おうとも自分が決めたことをくじけずにやり続けることが成功の秘訣であると語った。

続けて、働くことの意義・心構えについて触れ、自分のことだけでなく相手のためにという意識を持つことが必要であり、それによって人は成長できると語った。また、チームで働いて結果を出すのが社会人であり、いろいろな人と協働する力が大事であると説いた。

また、仕事の基礎となるのは人間関係であり、それを良好にするのがビジネスマナーであるとし、マナーの原則を説明の後、挨拶・お辞儀などの演習を行い、「マナーは皆さんの歩む道をスムーズにしてくれる」と述べた。



「人生のメインステージで輝こう」と庭田代表

最後に、「今、夢がなくても、必ず見えてくる時が来る。その実現のためには何をしなければいけないのかを逆算して目標を立て、地道に目の前のミッションをこなすことが必要。無駄なことは何一つない。つまらないと感じる時こそ、与えられた日々を大事に生きてほしい」と強調して、講演を締めくくった。

第10回 射水市立大門中学校

平成30年11月30日(金)、山野昌道氏(株)チューリップテレビ専務取締役)が射水市立大門中学校において、全校生徒約750名を前に、「人生を楽しくする3つのコツ」をテーマに課外授業を行った。

山野専務は、はじめに、幸せな人生をおくるにはどうすれば良いかを考える時に大きなポイントになるのは、どう働くかということとどんな家庭を持つかということであると述べた。

そして、「本当の自分というものは、一生分からない、人生も何が起こるか分からない」としたうえで、「それでも何かを見つけないという気持ちがある。そのためには、考え、行動し続けることが必要」と強調した。

続けて、自身の経験の中で大変苦勞した仕事を楽しみ思い出になっていることを紹介し、「つらかった仕事を楽しみ思い出になるのは、やり甲斐があったから。人生も同じであり、良かっ

たと思うことができるのは、つらさ厳しさがあるものではないか」と述べ、充実した人生のためには苦勞を恐れずチャレンジしなければならぬと説いた。



「一日一日を一生懸命生きよう」と山野専務

最後に、「幸せな人生とは夢や目標に向かって努力でき、自分ではなく人のために生きられ、家族が仲良く暮らせるもの。そうした人生を送るためには、迷ったらやる、人のせいにならない、前向きに考えることが重要」とし、「自分の選択していく道が正しいものとなるよう努力を続けよう」と熱く語り講演を締めくくった。

平成30年12月7日(金)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が射水市立大門中学校において、1、2年生約500名を前に、「よりよく生きる」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長は、まず、LINEのやりとりでの誤解から仲良しグループが崩壊してしまった例を挙げ、「些細なことでもズレが起きるとするのは、日常においてよくある話。大事なものは自分の行動に対し相手がどのように思うのかを考えることである」と語った。

続けて、「自分と自分以外の人とがいて、そこには『間』(ま)がある。これがすなわち『人間』ということ」と述べ、「人間社会で大事なことは、『間』をどのようにうまく保つかということ。これまでの人生でも知らず知らずのうちにやってきたことだと思うが、将来においてもずっと大切なことである」と強調した。

そして、自分と相手の考えが衝突した時には、

単純に我慢して相手に迎合するのではなく、それぞれの背景には何があるのかを理解し合い、お互いが納得することが必要であり、そうすればよりよい解決策が見えてくる」とし、その時に日々勉強していることが「知識」として役に立つと述べた。



「相手を思いやる気持ちを持とう」と牧田社長

最後に「毎日の勉強と良い人間関係を作ることが将来につながることであり、その基盤はもう作られ始めている。それを忘れずに楽しい中学校生活を送ってほしい」とエールを送り講演を締めくくった。

第11回 富山市立北部中学校

平成31年1月24日(木)、遊道義則氏(株)ユニオンランチ取締役社長)が富山市立北部中学校において、1学年176名を前に、「働くということ」をテーマに課外授業を行った。

遊道社長は、はじめに自社の業務内容を紹介、会社には様々な役割を持つ社員全員が働きがいを感じることができるようにするとともに、良い商品を作り利益を上げて、それを社会に貢献する会社を作ること、そのための決断をし、責任をとることが社長としての自身の役割であると述べた。

次に、自身が最初から今の会社で働こうと思っていただけではないことに触れ、人生においてはさまざまな目標に向かいながら勉強や経験を積んで能力を磨くとともに、自分を分析し、なりたい自分に向かうために自分の意思で決断することが大切であると語った。

そして、自分のあり方「Be」、行為「Do」、結果「Have」の中で、最も大切なのは「Be」であり、誰のために働くのかを見つけて出すことで人生は楽しくなるとし、すべての職業は人の役に立っている、人の役に立てることに喜びや嬉しさを感じようと言った。



「自分の可能性を信じよう」と遊道社長

最後に、現在の自分を卑下することなくいろいろなことを勉強して多くの選択肢を持ち、抵抗を恐れず積極的に変化・成長しながら、人と関わり力を合わせて生きていこうと強調して講演を締めくくった。

第12回 富山市立速星中学校

平成31年2月7日(木)、市森友明氏(株)新日本コンサルタント取締役社長)が富山市立速星中学校において、1年1組32名を前に、「学習の目的を知って努力を楽しくしよう」をテーマに課外授業を行った。

市森社長は、はじめに「人生山あり谷あり」だったと、自身の50年史をグラフで紹介し、悪いことが起こった時にどれだけその逆境に耐えられるかが大事だと説いた。

次に、なりたい職種によって行くべき大学の学部が決まってくるので、今のうちから様々な教科の勉強が必要であるとし、今からしっかり学習することで、来るべき選択の時期に選択の幅が広がると述べた。

続けて、自社の業務がアジアを舞台に幅広く展開されていることに触れ、国際的に通用する人材になるためにも、英語のコミュニケーション能力が大事であると語った。

また、努力と成長度の関係をグラフで示したうえで、「たとえ努力していても最初のうちは壁にぶつかり、なかなか結果につながらない。しかし、努力することを続けていけば、そのうち成果があらわれる(=ブレイクスルー)」と語った。さらに松岡修造氏の言葉「100回叩けば突破できる壁があっても、99回で諦めてしまう人がいる。その人は今までの努力やかけてきた時間が無駄に終わってしまう」を紹介して努力の大切さと継続は力だということを重ねて説き、大事なことは「自分をどれだけ信じるか」と強調して授業を締めくくった。



「自分を信じて努力を続けよう」と市森社長

平成31年2月7日(木)、伊東潤一郎氏(アイティオ(株)取締役社長)が富山市立速星中学校において、1年2組32名を前に、「生き方を学ぶ～働くことと幸せになること～」をテーマに課外授業を行った。

伊東社長は、まず「始める時に握手をする、勝ったら大喜びする」ことをルールに、クラス全体でジャンケンを行い場を和ませるとともに、「たとえジャンケンに勝ったという些細なことでも、うれしいときは大きく喜ぼう」と説いた。そして、生徒に「最近、人に喜んでもらったことがあるか」と問いかけた後、あるファーストフードチェーンを例に、お客さんが嬉しいと思う対応と不快に感じる対応とを比較したうえで、社会人として必要なのは相手のことを考えて喜んでもらうことだと語った。

続けて、自社の業務内容を紹介。例えば身近にあるペンは金型がないと1つ1つの素材を加工して製造することとなり非常に高価なものに

なってしまうこと、飛行機のエンジン部品などの金型の製造においては人の命に関わるものであり、高度な技術や確かな安全性が求められる大切な仕事であると語り、ものづくりの素晴らしさを紹介した。



「相手に喜んでさえれば自分も幸せになれる」と伊東社長

最後に、テーマパークを例に「楽しいと思ってもらえれば、また行きたいという気持ちにつながる」とし、働くことで大切なことは、相手に繰り返しその行動をしたいと思ってもらえること、どのようにすれば相手に喜んでもらえるかであると強調して授業を締めくくった。

平成31年2月7日(木)、尾山謙二郎氏(株)マンパワーセキュリティ代表取締役)が富山市立速星中学校において、1年3組35名を前に、「生きる力を学ぶ」をテーマに課外授業を行った。

尾山代表は、冒頭で「この時間は寝てもいいが、起きているなら全力で参加してほしい」と述べ、生徒の集中力を高めた後、エビングハウスの忘却曲線の例を出し、メモを取ることの重要性について説いた。

続けて、クラス全員で伝言ゲームを行い情報を正しく伝えることの難しさを生徒に体感させるとともに、「現代社会は情報が多すぎる」としたうえで、正しい情報と間違っただけの情報をしっかりと自分の耳と目で判断することが重要であると語った。

次に、「なぜ学習しなければならないのか」という生徒からの問いに対し、人生は選択の連続であり、正しい選択をするためには知識が必要となってくるとし、選択の誤りを防ぐために

学習する必要があると述べた。

そして、いろいろなことに「挑戦」することが大切であり、その過程で涙が出るくらいの挫折と失敗を経験することもあるが、「やらずに『後悔』するより、失敗しても『反省』することによって次へのステップに繋がっていく」とし、挫折や失敗を恐れずに行動しようとした。

最後に、人間関係においては「ありがとう」「ごめんなさい」「お願いします」の3つの言葉が重要な働きを持つとし、学校生活ではこれらの言葉が言える人になってほしいと述べて授業を締めくくった。



「人目を気にせず自分らしく生きよう」と尾山代表

平成31年2月7日(木)、庭田幸恵氏(株)プラチナコンシェルジュ代表取締役)が富山市立速星中学校において、1年4組32名を前に、「失敗も不安も夢の途中」をテーマに課外授業を行った。

庭田代表は、はじめに、夢とは自分の心の中で実現すると決めてそれを実行すること、そして、誰から何を言われてもあきらめないことであると述べた。

また、何かをしようと思ったときに完璧という状況になることはないとし、自分のスキル以上のことにチャレンジするときの勇気が大切であり、行動すれば景色が変わると説いた。

さらに、一つの失敗を知ると次へのノウハウを得ることができるとし、失敗は悪いことではなく、失敗したときにどうしたらいいのかを真剣に考えることが大事だと語った。

次に、働くことについては、自分のしたいことは何か、それができるのはどの会社かという

観点で仕事を選んでほしいと述べた。そして、学校生活での基本ができていなければ仕事はできないとし、挨拶をすること、時間を守ること、チームワークが社会では必要な力であると述べた。

最後に、中学生の今の時期は、長い人生でいうとまだ夜明け前であると述べ、今、夢がなくても焦る必要はないとし、「どこで運命の言葉に出会うかは分からないが、相手が発してくれている運命の言葉に気づける人でいてほしい」と語り、授業を締めくくった。



「本気になって夢を実現しよう」と庭田代表

平成31年2月7日(木)、福崎秀樹氏(株)フクール代表取締役)が富山市立速星中学校において、1年5組35名を前に、「AI時代を生きる」をテーマに課外授業を行った。

福崎代表は、電話やラジオ、テレビ、インターネット、LINE等が5000万人に使用されるまでにかかった時間を提示したうえで、これからの社会は指数関数的に技術が進んでいき、今ある仕事の約半分がAIにとって代わられるとしつつも、「焦る必要はないが、このような状況にあることは常に考えておく必要がある」と語った。

続けて、「AIが当たり前にある社会の中で活躍するには」について、グループディスカッションにより生徒に考えてもらった後、自らの力で未来を切り開き、自分以外の誰かに必要とされる人間になることが重要であると説いた。

そして、そのためのキーワードとして、「考えろ!」「人と関われ!」「好きを追求しろ!」

という3つを挙げ、たとえ日常の何気ない物事にも、それはどういうことなのか考えるという習慣を身に着け、多くの人との交流の中で学んだことを人に伝え、好きなことをとことんやることで世の中での自分の存在意義を見出し、物事の本質を見極めることが大切であると強調した。

福崎代表は、最後に自身の好きな言葉である「常の勝敗は現在なり」を紹介し、今を一生懸命に生きることが未来につながるとして授業を締めくくった。



「今の一生懸命が未来の自分を創る」と福崎代表

平成31年2月7日(木)、田村元宏氏(株)タムラ設計代表取締役)が富山市立速星中学校において、1年6組38名を前に、「生き方を学ぶ」をテーマに課外授業を行った。

田村代表は、はじめに、「働く」とは「傍」が「楽になること」であるとし、自分の周りの人と一緒にしあわせになりたいと考えることが大切であると語った。

次に、今、自分たちが生きているのは、これまでの先祖や周りの人の支えがあるからであり、30代前まで遡ると10億人を超える祖先からつながっていることを説明。続けて、「ありがとう」の反対語は「あたりまえ」であることに触れ、身近にあるものが決して当たり前ではないということに気付くことによって、今を感謝して生きていけると説いた。そして、そのためには相手に興味をもち、相手を愛し、存在を認めることが大切であるということ、マザーテレサの

言葉やアンパンマンマーチの歌詞を紹介しながら語った。

続けて、今勉強できる環境にあるということが、とても贅沢なことであるとし、人は一人で生きているのではなく、多くの人に支えられて生きていくことに気付いた時に、「豊かさ」と「しあわせ」を感じることを説明した。

最後に、働くことによって付加価値と豊かさを創り、喜びと感動を生み出すことでみんなが幸せになる生き方があるとし、そのような人を目指してほしいとエールを送り授業を終えた。



「喜びと感動を生み出す人になろう」と田村代表

平成31年2月7日(木)、林和夫氏(朝日建設(株)取締役社長)が富山市立速星中学校において、1年7組33名を前に、「生きること。働くこと。」をテーマに課外授業を行った。

林社長は、はじめに、自身の介護経験を紹介し、その時に看護師から言われた「人間が生きていることには必ず意味がある」という言葉に大きな感銘を受けたことに触れ、「命とは自分の使える時間のことであり、肝心なのはそれを有意義に使うかどうかということ。皆さんには自分自身の命の時間をぜひ人のために使ってほしい」と語った。

続けて、「働くとは、『端業』と書き、周りの人を楽にする」ことであると説明し、「働く」ということは、自分のためにするのではなく、人や地域社会のために役立つことである。働くことは命を世のため人のために有意義に使うこと

である」と強調した。

そして、「能力は才能×経験×意欲×考え方のかけ算であるが、どれが一番大事だと思うか」と生徒に問いかけたうえで、松下幸之助氏の「好況よし。不況さらによし。」という言葉を紹介し、「考え方」こそがもっとも大切な要素であると説いた。

最後に「夢がないと成功しない、夢を持とう」と生徒に語りかけ、授業を終えた。



「なんのために生まれてきたのかを考えよう」と林社長

平成31年2月7日(木)、山崎義明氏(株)山崎製作所取締役社長)が富山市立速星中学校において、1年8組32名を前に、「生き方を学ぶ」をテーマに課外授業を行った。

山崎社長は、はじめに「生き方」というものは、個人、家族、友人、社会と人間の成長とともに広がっていくとし、一人だけのことを考える生き方から、家族では愛情を与え合える関係、友人では良いことも悪いことも答えてくれる関係、社会では自分の言葉を発信して共感を得ていく関係になると語った。そして、子供の頃は与えられるものが多いが大人へと成長していくにつれて、自分から獲得していくことが必要であると述べ、中学校という社会で人の良いところを見るとともに相手のことを分かるよう努力してほしいと説いた。

また、社会の中での人の、役割は仕事、労働

であるとし、仕事は経験の浅いうちは指示を受けて行うが、次第に任され、相談されるようになり、結果を求めようになると成長の課程を説明した。

最後に、自分で楽しん仕事ができるようになるまでに、その時その時でできることを一生懸命にやることが大事であり、「牢働」ではなく「朗働」となれるようにやる気をもって仕事することが重要であると強調して、授業を終えた。



「今できることに精一杯取り組みよう」と山崎社長

平成31年2月7日(木)、遊道義則氏(株ユニオンオンライン取締役社長)が富山市立速星中学校において、1年9組34名を前に、「生き方を学ぶ」をテーマに課外授業を行った。

遊道社長は、はじめに、仕事と呼ばれるものはすべて人の役に立つものであるとし、「人の役に立つと、充実感を得られたり、他人から感謝され嬉しい気持ちになる。ありがとうと感謝の気持ちを他者に伝えることが重要」と述べた。

次に、人生は選択の連続であるとしたうえで、「自分で自分の行動を決めることが重要であり、自分が選択し、決定し、幸福を追求していくことが人生である」と語った。

また、「人間は変化を嫌うが、挑戦することも変化である。変化を恐れずに、楽しみながら自分自身をアップデートしていくと捉えれば良い」と語った。さらに、技術や知識、感性を身につけることで人は成長するが、自意識の過剰

や、現状への満足、傲然だったり、自分を卑下していたりすると成長の妨げになるとし、人の責任にすることなく自分の責任だと思えば気持ちも楽だし、自分のパターンを超えることができる」と語った。



「誰の為、何の為を考えよう」と遊道社長

最後に、「豊かに生きるには、目標があったほうが良い。高い志をもち、現状を確認し、計画を立て、それを確実に実行していくことで、自分の人生の目的に少しずつ近づく」とし、まず実行することが大切であると強調して授業を締めくくった。

第13回 富山市立大沢野中学校

平成31年2月13日(木)、遊道義則氏(株ユニオンオンライン取締役社長)が富山市立大沢野中学校において、1学年174名を前に、「働くということ ～変化に対応して、成長する習慣を身につけよう!」をテーマに課外授業を行った。

遊道社長は、はじめに、「言葉」の不思議さと大切さについて触れ、人間は自分の言葉を統御しているつもりで、実は言葉に支配され統御されているとし、選択の連続である人生において、言葉には意図や目標を明確にして、有意義な時間を過ごせるようになる働きを持つと語った。

続けて「変化」と「成長」について、変化によってストレスが生じることは避けられないが、変化を正しく理解し、変化を楽しみ、新しい機能をアップデートするつもりでいることが成長に繋がると強調した。

さらに「目標」への取り組み方、「目的」を

見つける意義について、目標の設定や自分の現状把握、計画立案によって方向性が明確になるとし、チャレンジを続けることが重要だと述べた。また全ての結果は行動によってもたらされ、その行動はあり方の影響を受けるとし、何のためかという目的設定の大切さを説いた。



「人の役に立つことに生きがいを感じよう」と遊道社長

最後に、冒険・挑戦することや責任をとること、すぐ実行すること、協力することなどの「自己の効果性の諸要素」について紹介し、自己の確立や生き方の方向性を見つけるヒントにしてほしいと激励し授業を終えた。

第14回 富山県立富山商業高等学校

平成31年2月14日(木)福崎秀樹氏(株フクール代表取締役)が富山県立富山商業高等学校において、1年6組(情報処理科)40名を前に、「予想される仕事の変化～業界の仕事」をテーマに課外授業を行った。

福崎代表は、はじめに、現代社会のいろんな場面でAIが活用されていることに触れるとともに、2045年には人工知能が技術的特異点(シンギュラリティ)に到達し、人間の脳を超えるという予測があることを紹介し、今後10年で現在の仕事の約半分がAIで代替可能になるとも言われているとしつつも、「それを恐れる必要はない」と説いた。

これからの人間の活路は、他者との対話によって発想を広げ、工夫して新しいものを創造するということにあるとした上で、「今の子どもたちの3分の2は現在存在しない職業に就くとも言われている。可能性が多くある未来に向けて、AIに仕事を奪われるという発想ではな

く、自分が『どうやって生きていくか』を考えると非常に大切である」と強調した。

そのためには、主体的に行動して人に良い影響を与えることができ、考えを実践し、より良いものを追求する「人間力」が人生を切り開く力となるとし、「自ら考え、人と関わり、好きなことを追求しながら、今を一所懸命に生きてほしい」と述べた。

最後に「夢とは心のあり方、生き方である。職業で物事を考えるのではなく、自分が『どう生きていきたいか』を考えてほしい」と激励して授業を締めくくった。



「可能性ある未来に向けて考えよう」と福崎代表

平成31年2月14日(木)、神崎直志氏(三井物産(株)北陸支店長)が富山県立富山商業高等学校において、1年7組(情報処理科)40名を前に、「予想される仕事の変化～業界の仕事」をテーマに課外授業を行った。

神崎支店長は、はじめに、ここ百余年の日本の産業構造がどのように変化し、商社の仕事かのように変わってきたのかについて自社の歴史とともに振り返り、時代のニーズに合わせて様々な商品を取り扱ってきた三井物産が、戦後復興・高度経済成長期には、モノの売り買いを介在するだけではなく、モノの売り買いの流れそのものを作るような事業投資をするようになったことを紹介。「総合商社は社会が求めるものが変わるたびに、取り扱う品物や取り組みを変えてきた」と語り、「『挑戦と創造』の精神を変わらず持ち続け、時代のニーズに合わせて提供するものを変えていく『柔軟性』が三井物産の強みである」と強調した。

次に「将来なりたいものについて是非考えてほしい」と語りかけるとともに、「情報処理の仕事は、今後引く手あまたである。そういう勉強は必ず役に立つし、就職にも大変有利な勉強をしているという自覚を持ってほしい」と激励した。



「夢をカタチにしよう」と神崎支店長

最後に、「高校や大学で専攻した仕事に就く必要は全くない」としたうえで、高校の同級生が宇宙飛行士の夢を叶えたエピソードを紹介、「なりたいという思いを持って努力すればなれる可能性がある」とエールを送り授業を締めくくった。

第15回 富山県立富山商業高等学校

平成31年2月15日(金)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長)が富山県立富山商業高等学校において、1年3組(国際経済科)40名を前に、「予想される仕事の変化～業界の仕事」をテーマに課外授業を行った。

牧田社長は、はじめに、異なるメーカーの市販のチョコレート二種類を提示し、どちらがより売れる商品だと思うかを問いかけて、二つの商品を消費者の視点から比較させたうえで、「企業は利益を得るために、代金をもらえるだけの商品やサービスなど、皆の『役に立つ』ものを提供しなければならない。これが企業活動の原点である」と説明した。

そして「人は労働を提供することにより給料をもらうが、会社が進もうとしている方向を目指し、周りとの力を合わせる必要がある」とし、こうしたことにより人々の役に立つものを生み出すことが、働くことの究極の目的である」と語った。

さらに、今後の社会はどのように変化していくのかについて、過去の社会の変化を振り返りながら説明。体力が必要だった時代、知力が必要だった時代を経て、今後AIやIoTの活用が進むと、心が重要となる時代が到来するとし、AIなどで補えない部分を人間の持つ思いやりの心が支えていく時代になると強調した。



「思いやりの心がこれからの時代を支える」と牧田社長

最後に、こうした時代を迎えるにあたり、人々の持つ感情や人間関係の大切さを理解し活躍してほしいと激励し、授業を締めくくった。

最後に、こうした時代を迎えるにあたり、人々の持つ感情や人間関係の大切さを理解し活躍してほしいと激励し、授業を締めくくった。

平成31年2月15日(金)、榎見昭一氏(株)北國銀行 執行役員富山支店長)が富山県立富山商業高等学校において、1年4組(会計科)40名を前に、「予想される仕事の変化～業界の仕事」をテーマに課外授業を行った。

榎見支店長は、はじめに、金融業の役割について自行の業務内容を交えて説明し、銀行業界は、今後の社会的背景の変化に対応しつつ、地域社会の発展はもとより、国内全体、さらには国外に視野を向けて事業を展開する必要があると語った。

また、海外に進出する日本企業への営業拠点として海外に支店を開設するなど、積極的なグローバル展開に力を注いでいる事例や、女性が活躍できる環境を積極的に整備していることなどを紹介した。

次に、少子高齢化の進展をはじめとする社会の様々な変化の中、今後の産業構造や仕事の内

容も、人々の想像を超えて変わっていくことが予想されるとし、こうした中、高校時代に様々な経験と学習を積み重ねて有意義な毎日を送り、来るべき将来にしっかりと備えてほしいと説いた。



「有意義な高校生活を送ろう」と榎見支店長

最後にこれからの社会を生き抜くためには、人との関わりを大切にすることが必要であるとし、そのうえでAIやIoTに柔軟に対応していくことやグローバルな視点を持つことも求められると述べ、何よりも自らの判断基準を大切にすることが重要であると強調して授業を締めくくった。

平成31年2月15日(金)、川合紀子氏(南ステップアップ代表取締役)が富山県立富山商業高等学校において、1年5組(会計科)40名を前に、「予想される仕事の変化～業界の仕事」をテーマに課外授業を行った。

川合代表は、はじめに、「15年後、30年後にはどんな社会になっていると思いますか」と生徒たちに問いかけ、意見交換を行った。

続けて過去から現代までの社会の変化、そして今後訪れる新たな社会について、内閣府が提唱している「Society 5.0」を紹介しながら説明、これまでの情報社会では、知識や情報が共有されず、分野横断的な連携が不十分であるという問題があったが、今後はAIおよびIoT技術を活用し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となることが予想されると語った。

また、高度に技術が発達した社会においては、想像したことを形にするという場面において、

人間の力が発揮されるとし、自分で主体的に考える力、判断する力、行動する力を身に着けることが求められる強調した。

最後に、新しい社会を迎えるにあたり準備しておくこととして、社会のいろいろなことに興味を持って、自ら主体的に学ぶとともに、数ある情報を自分なりに咀嚼し、自分の考えを持って取捨選択していくことを挙げ、しっかりと判断基準を備えるために、日々の学習・経験を通して養っていくことが重要であるとし、失敗をおそれず積極的に行動を起こそうと激励して授業を締めくくった。



「今日から未来への一步を踏み出そう」と川合代表

(2) 教育講演

〈平成29年度〉

失敗が成長の糧になる 米屋社長が朝日町学校教育運営研修会で講演

8月22日(火)、米屋慎一氏(北星ゴム(株)代表取締役社長)が朝日町図書館において、朝日町小中学校教職員約50名を対象に、『私が会社で実践していること』～社長から社員へのメッセージ～と題して講演を行った。

米屋社長はまず、自身について、成功体験より失敗から学んだことの方が多かったと述べ、過去に自社で起こった火災や東日本大震災の影響等、過去の教訓をもとにした様々な対応について紹介し、失敗から学び、想定外のことに對する備えの重要性を説いた。

続けて、企業トップとして部下に伝えていることを紹介し、まず、「5現主義」「現地」「現物」「現実」「原理」「原則」に則り仕事をすること。机上の空論ではなく、現地で現実を認識することが必要」と強調した。

次に、「バッドニュース・ファースト」として、

悪いことほど隠さずに、真っ先に報告することの重要性を説いた。

さらに、連合艦隊の山本五十六元帥の言葉「やってみて、言ってみて、ほめてやらねば人は動かず」などの言葉を紹介し、「言うは易しだが、人と人が向き合う際には、少しでもこのようなことを意識することにより自分の行動が変わるし、自分が変われば人も変わる」と強調した。

最後に、「先生方の仕事の成果は、数値で出るものではない。子供たちが、10年、15年後にどういう人間になるかが、仕事の成果だ。今日お話ししたことから一つでも仕事のヒントなることがあれば、ぜひ明日から活かしていただければありがたい」とし、講演を締めくくった。



成功よりも失敗から多くを学んだと米屋社長

社会に貢献する子供たちの育成を 大橋常任幹事が中・高進路指導主事に講演

10月5日(木)、大橋聡司氏(大高建設(株)取締役社長)が、中・高進路指導研修会において、進路指導主事約70名を対象に、「今、社会に求められる人財とは」と題して講演した。

大橋社長はまず、コンピューターに取って代わられるであろう職業や、公用語に英語を採用している日本企業を紹介、更に、企業の海外進出や外国人従業員の採用が増えていることを挙げ、グローバル社会において、アジアや世界の若者とともに生きる時代が来ていることを印象付けた。

次に、海外教育事情視察で訪問した国々の教育にふれ、アジア、ヨーロッパ、アメリカと日本との教育事情の違いについて、訪問した学校の特徴を紹介しながら説明した。また、外国、特に中国との比較では、日本の若者は勉強時間が少なく(平均は中国1日14時間に対し日本は8時間)、将来に抱く希望も小さいことなどへの不安を語った。さらに、「教員の皆さんの成果は“子供たちの成長”

であるが、海外と比べても、それ以外のことに時間を割かれている印象が大きい」と指摘した。

次に、自身が行うレストラン事業では、アルバイトや社員の人財育成に力を入れており、店長がアルバイトの親から感謝されたエピソードを紹介し「働くとは社会に貢献し、そのことに喜びを感じ、人生を価値あるものにしていくことである」と述べた。

最後に、「企業も社会に貢献する人財を育てること、従業員の人生が価値あるものになることが求められることと考えるが、学校も同じである。社会に貢献する子供たちを育てることを望む」と希望し、講演を締めくくった。



「社会に貢献する子供たちの育成を」と大橋社長



子供たちに“思いやり”を持たせる教育を 牧田副代表幹事が、砺波高等学校教職員に講演

12月4日(月)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長が富山県「これからの教育には“思いやり”立砺波高等学校教職員研修会において、

教職員約40名を前に、これからの人材育成をテーマとした講演を行った。

牧田社長はまず、「PISAのランキングで、日本の子供たちは、人口5千万人以上の国の中で断トツトップである。一方で、Times Higher Education社（THE）の世界大学ランキング2018で、東京大学は46位。この差の理由は何であるか？」と問いかけた。その答えとして、日本の教育制度に問題があることを指摘し、「知識のみが重視される大学入試突破を意識した教育がされている。小中学校が高いレベルなのに、高校では大学を意識して知識ばかり重視される、ここに問題

がある。これでは社会に出て通用しない、だから、大学ランキングが落ちて当然である」とし、これに対して文科省が教育改革に乗り出し、高大接続、アクティブラーニングを推し進めようとしていることを説明した。

次に、アクティブラーニングの必要性について、「グローバル化とAIがこれからの子供たちに確実に影響を及ぼす。多様な価値観の融合やインターフェイスが重視される社会に変わるから、子供たちにもこれに対応させる、そのためにやるのがアクティブラーニングである」と強調した。

最後に、「子供たちには、相手が何を思っているかを考えること、つまり“思いやり”を持たせない、アクティブラーニングは成り立たない。手法ばかり教えてもダメ。心ができていて初めて知識が活かせるのである」と熱く語り、講演を締めくくった。



学校経営は理念を持って 牧田副代表幹事が、砺波地区の小中学校長に講演

「学校経営には理念が大切」と
牧田社長

に」と題して講演を行った。

牧田社長は、まず人間関係について「人間社会において、自分と他者との間には“間”が存在する。両者の関係を左右するのはこの“間”であり、社会に適応し、よりよく生きるためには、“間”つまり人間関係をよりよくすることが大切だ」と強調した。

また、学校経営について「企業と同様に学校においても経営理念を持たなければならない。学校にとっての“客”は、決して「子供」や「親」ではなく、「社会」なのだ。社会の役に立つ未来の人材を社会に輩出し、役に立つことが学校の役割

であり、これが教育の大義だと考えている。このことを頭において、学校とはどんな存在なのかを考え経営理念を作っていただきたい」と訴えた。

次に、どうしたら人は指示に従ってくれるのかと問いかけ、「人間の究極の欲求は“自己実現”である。自分が役に立ち認められているということを感じられれば、人は動く。人を動かすには、理：明快な理屈を持ち、情：その背景に理屈を超えた愛を持ち、強：権威・ポジション・人間性を利用し、弱：高圧的な“説得”ではなく“納得”させ相手を取り込む、こうした伝え方が必要である」と説いた。

最後にまとめとして、「人間関係をよりよくするため、相手に自己有用感、自己肯定感を与えることが大事。その際「理」「情」「強」「弱」を持って伝えるとうまく行く。これを学校経営だけでなく地域でも是非活用していただきたい」と述べ、講演を締めくくった。

ものづくりの素晴らしさとひとづくりのあり方

伊東社長が黒部市、朝日町で講演

伊東潤一郎氏（アイティオ㈱取締役社長）が、8月22日（水）に黒部市立宇奈月小学校で開催された黒部市小中学校学校経営研修会において黒部市小中学校教職員約40名を対象に、8月24日（金）に朝日町役場で開催された朝日町小中高校教育研究協議会において朝日町小中高校教職員約70名を対象に「中小企業のものづくりと人材育成」と題して講演を行った。

伊東社長は、はじめに、企業は必ず自らのためではなく社会のために何ができるかという観点に立って何のためにその仕事をするのかということを表した理念を持ち、人材育成においてもこうした理念に基づいて行われていると述べた。特に中小企業においては自分で考えて行動する力が必要であることから、自らの会社の社員に対しても、常に何のためにものづくりをするのかということを開きかけているとし、自ら考えてものを作ることでできる人材育成に努めていると語った。また、松下幸之助氏の水道哲学を引き合いに出し、物を安価に大量に供給し人々を幸せにするということが製造業に従事する者の使命であると述べ、ものづくりの素晴らしさとしてどれだけ一生懸命に取り組んでも誰も損はせず、ものを使う人々を幸せにできる点にあると熱く語った。

次に、企業が存在するために必要なものとして顧客満足、社員満足、社会貢献の3つを挙げ、これらを満たすにはどうすればよいのかを常に考え

ることが必要であると語った。そして、学校にとってのお客さんは誰になるのか、学校にとっての顧客満足とはどういうことかを問いかけたうえで、社会を顧客とし子供たちを育て上げて社会に出し社会に満足してもらおうという考え方もできるとし、こうした視点からどのように教育を行っていくか考えることも大切であると説いた。

さらに、社会に必要な力は、学力と体力、そして人間力の三つであると強調し、社会に出ると自ら問題を探し出して解決して行くことが求められるが、まずは問題に対して気付くことが必要であり、この気付くということ子供たちにどうやって教えていくのかを考えていかなければならないと語り、なぜ気付くことができないのか、気付くためには何が大事なのか、気付くためにはどういった意識や行動が求められるのかについて説明した。

最後に、素晴らしい子供達を育て上げ社会に送り出していきたいと述べて、講演を締めくくった。



黒部市小中学校学校経営研修会



朝日町小中高校教育研究協議会



「キーワードは『心』」と
牧田社長

「AI時代を見据えた指導を」 牧田副代表幹事が中・高進路指導研修会で講演

平成30年10月4日（木）、牧田和樹氏（㈱牧田組取締役社長）が、県教育委員会が開催した中・高進路指導研修会において、進路指導主事約70名を対象に「AI時代への布石」と題して講演した。

牧田社長は、まず、現代の社会構造について、世の中ではいろいろなことに対しアイデアが必要であり、さらにはアイデアを形にする、形にしたアイデアを作ったり売ったりする、さらにそれをサポートするという流れがあると説明。そしてそれぞれの領域を担うための人材が必要であり、どの領域を選択するかによって進路指導は異なると述べた。

また、社会環境の変化として、今後はAIが色々な領域に入り込み、人間の仕事が奪われていくので

はないかと懸念されるが、AIの本質は、与えられたデータに対して蓄積された多くのデータから関連するものが返されるという一連の流れであり、データ収集力とデータ処理によって支えられているとし、AIにできないことができる人材を育てることが重要であると説いた。

そして、AIに負けないために必要なのは、人と人との「間」を円滑にして人間関係を構築する力であると説いた。そのためには、今後、異なる価値観を融合させて、より高い次元のものを見出す力が求められるとし、相手を思いやる人間性と相手のことを理解するための広い知識が必要であると述べた。

最後に、こうした力をつけるにはアクティブラーニングが非常に重要であり、地道に授業で活用することで、子供たちの適性を見極めていくことが求められると強調し講演を締めくくった。



「働くこと」の原点を考えてほしいと中尾相談役

それぞれの立場で「働くということ」を考えよう 中尾特別顧問が富山県高等学校教頭会研究発表会で講演

平成30年11月22日(休)富山電気ビルディングで開催された「富山県高等学校教頭会研究発表会」において、中尾哲雄氏(株)アイザック取締役相談役が「働くということ」と題して県内の高等学校教頭約150名を対象に講演を行った。

中尾相談役は、まず、日本では「働く」ことの根本に「世のため」ということがあり、お金はそれについてくるという考え方であると説明したうえで、それがだんだんと欧米のように生活の手段、お金のためという風潮になりつつあるとの懸念を示した。

次に、今日の働き方改革では、労働条件等の「働き易さ」に焦点があてられ、「やり甲斐」ということが見落とされていると指摘し、自らの成長のためには「働き易さ」より「やり甲斐」が高いモチベーションになり得ると述べた。

さらに、管理的な立場の者は「働き易さ」と「やり甲斐」を持つ「働き甲斐」のある職場を作ることが使命であり、働く人が潜在能力を最大限に活かし、仕事への誇りと連帯感を持つことを具体化しなければならないと説いた。

そして、「今の若者たちは働くことの意義、目的を失いつつあるように感じる。労働を嫌い、厭い、回避しようとしており大変心配である。教育として何か果たせる役割があるはず。働くことの中に素晴らしい力があるということを知ってもらいたい。働くことが人間を鍛え、心を磨く。人生において価値あるものを掴みとっていくために働くということが重要な行為だということをそれぞれ考えてほしい」と強調した。

最後に高校時代に先生から「今日は過去からの贈り物。だから present という」と教えてもらい今日という日を大事にすることを心がけてきたこと、そして、今年2月に偶然この言葉がルーズベルト大統領夫人の言葉であることを知ったというエピソードを紹介し、「教頭である今日を大事にし、一日を大切に全うし、明日に繋げてもらいたい」と激励して講演を締めくくった。

働くということ



H30.11.22

中尾 哲雄

隠された背景を考えよう 牧田副代表幹事が富山市立桜谷小学校で講演

平成30年12月7日(金)、牧田和樹氏(株)牧田組取締役社長が富山市立桜谷小学校において、同校の教員15名を前に、「今、教員に期待すること」をテーマに講演を行った。

牧田社長は、まず、「文部科学省では教員に対し子供たちの『生きる力』を育むことを求めているが、『生きる力』とは何なのか、教員自身に『生きる力』がついているのか、何をどこまで教えれば良いのか」と問いかけ、子どもたちを教養育てることのポイントが明確になっていないと述べた。

次に、「これまでの人生のプロセスにおいて何が一番大事であったか」と問いかけ、「『生きる力』というものをあらためて定義してみるとどうなるか。我々が生活している社会では『人』と『人』との間に『間(ま)』がある。自分と他者というのが社会における最小単位の人間関係であり、これが集まって人間社会を形成している。社会を支配しているのはそれぞれの人間関係で成り立っている『間』であり、『生きる力』というのはここから導きだされる」と説いた。

そして、「間」をうまく保つ、すなわち人間関

係を築いていくうえで大切なことは、異なる価値観がぶつかった場合に、相手の価値観に無条件に合わせたり、自分の価値観を無理に通したりするのではなく、それぞれの価値観の背景に何があるのかを理解したうえで、解決策を探り双方にとってよりよいものを見い出すことであるとし、これが「思いやり」であり真の生きる力であると強調した。

日常生活では、自分と他者が常につぶかることの連続で誰もが調整しながら生きているとしたうえで、子供達には相互が理解し合い、解決策を見つけて行ける力を付けてやらなければならないと述べた。さらに、相手を理解し解決策を見い出すには知識がないとできないとし、知識を得るために勉強が大事になると語った。

最後に、「日々子供たちに教える中で、物事の根底には何があるのかということに常に考えるよう意識してほしい」と述べ、講演を締めくくった。



「真の生きる力」とはについて話す牧田社長



「自らの仕事に誇りを持つ」と
伊東社長

ものづくりの素晴らしさとひとつづくりのあり方 伊東社長が砺波地区小学校長会で講演

伊東潤一郎氏（アイティオ㈱取締役社長）が、2月19日（火）に小矢部市立津沢小学校で開催された砺波地区小学校長会において砺波地区内の小学校長22名を対象に「中小企業のものづくりとひとつづくり」と題して講演を行った。

伊東社長は、はじめに、自社で缶のプルタブ、建材、自動車や航空機のエンジンなどの金型を製造していることを紹介し、作られた金型がどのように社会に貢献しているか、誰にでも分かるように発信していく必要があると語った。企業は世のため人のために何ができるかという理念を持っており、これに基づき人材を育成しているとし、人を育てる金型づくりを目指していると述べた。

次に、「ものづくりの素晴らしさは、ものを使う人すべてをしあわせにすることにある」とし、自分だけではなく人の生活を豊かにしていくという考え方が重要であると説いた。

そして、「会社は顧客満足、社員満足、社会貢

献の3つが満たされて存続していく。学校にとってのお客さんは社会。学校には人材を育て社会に送り出すという使命がある」とし、こうした視点からどのように教育を行っていくか考えることも大切であると語った。

さらに、「生きていくために必要な3つの力は、人間力、学力、体力であり、これらを備え持つ人材を育てていくことが重要であるが、特に人間力をどのように育成していくかということには分からないこと、難しいことが多いのではないかとし、「社会においてはある問題に対する答えというのは一つとは限らない。子供たちも先生方も、自ら問題を発見し、自分ならどのように解決するかを常に意識することが大切である」と述べた。そのためには、いろいろなことから気付きを得ることが求められるが、そうした時に重要なのが、物事に対し素直であること、好奇心を持つこと、好きになることなどであると強調した。

最後に、「成功の反対は失敗ではなく、何もしないこと。気付いたら積極的に行動してほしい」と力を込めて語り、講演を締めくくった。